

団体名	忠臣蔵交流楽碁会	活動名	忠臣蔵交流囲碁大会
-----	----------	-----	-----------

1 事業の実施内容

① 実施場所 (地域) 12月11日 赤穂市文化会館 12月12日 花岳寺	② 実施期間 自 平成22年12月11日 至 平成22年12月12日
③ 実施体制 ・団体構成員 (赤穂市、上郡町、備前市) 115名 ・一般参加者 78名 ・審判長 1名 ・ボランティア (司会、傘踊り) 7名 計 201名	
④ 事業実績 1) 5月7日第1回実行委員会を赤穂楽碁会囲碁サロンにて開催し、忠臣蔵交流囲碁大会開催の趣旨説明と赤穂市備前市上郡町から実行委員16名を選出、12月11日開催に向けての準備作業を確認。また本大会の前に3市町のメンバーの親睦も兼ねて7月13日(火)にプレ大会開催を決定。 2) 6月20日①東備西播定住自立圏民間イベント事業推進支援金(推進協議会宛) ②地域づくり活動応援事業助成金(兵庫県西播磨県民局宛)の申請書 ^ホ を実行委員に送付し書面審議 3) 7月13日楽碁会囲碁サロンにてプレ大会開催、参加者は赤穂市12名、備前市10名、上郡町13名の合計35名であった。プレ大会終了後第2回実行委員会を開催、①忠臣蔵交流囲碁大会募集ホームページの作成の検討、②案内状発送住所録を作成するため2市1町の囲碁クラブに協力要請、③参加クラス分けについては、棋力によりA,B,Cの3クラスと初級者にも参加してもらうため、6級以下の初級クラスと、チビっ子クラスを加え5クラスとした 4) 8月31日までに以下の準備作業を実施 ①定住自立圏支援金と県民局の地域づくり活動助成金決定し、実行予算計画書を作成 ②赤穂市、上郡町、備前市の教育委員会の後援名義使用を申請し認可。 ③予選大会会場について、展示室/学習室を使用することで検討。 ④決勝大会は花岳寺本堂の使用また内蔵助愛用碁盤の展示に付いて正福寺の内諾を得る。 ⑤大会参加募集案内のホームページと案内チラシを作成 ⑥2市1町の囲碁クラブ関係者から集めた案内状発送名簿をパソコンに入力(約500名) 5) 9月25日第3回の実行委員会を楽碁会囲碁サロンにて開催 ①10月初旬案内状発送、11月15日までに出席を返信用はがきにて連絡してもらう ②参加者目標人数を150名に設定 ③大会事前準備事項チェックリスト作成 ④大会当日の運営手順案を審議し各委員の役割分担を決定 ⑤現時点の協賛会社と協賛品を実行委員に紹介し、更なる協賛会社の追加依頼 6) 10月5日大阪市北浜の関西棋院を訪問し、審判長に端山7段に依頼、さらに関西棋院の後援の内諾を得る。また大会で使用する碁盤碁石対局時計を格安レンタルにて了解を得る 7) 11月3日現在申込人数が80名と少なく、参加案内状発送を相生たつの姫路瀬戸内に拡大 8) 12月1日第4回の実行委員会を楽碁会囲碁サロンにて開催 大会参加申込み状況は、197名と200名を突破する勢い、急きよ関西棋院に、碁盤碁石対局時計の追加を依頼。また優勝賞品として、備前焼・人間国宝 伊勢崎淳先生より備前焼を各クラスの優勝者にいただくことになり、大会の雰囲気一層盛上る。 9) 12月11日予選大会当日、大会役員、赤高囲碁部メンバーを動員して、午前8:00よりハーモニー小ホールと展示室の準備開始。参加者は193名 10) 12月12日花岳寺本堂で決勝大会、全般的にトラブルもなく無事終了。	

2 事業実施の成果と今後の課題

① 事業実施の成果

人口減少が進む東備西播地区の活性化を図るために、国(定住自立圏構想の推進)、県(住み良い西播磨地域作り助成事業の展開)、市(忠臣蔵赤穂義士祭の盛上げ)と国、県、市がそれぞれ取組んでいるプロジェクト事業に、2市1町(赤穂市、備前市、上郡町)が中心となって、近隣の市町村にも呼掛け、民間レベルの囲碁を通じた文化交流という切口から応募し採択される。住んで良かったと思える活力ある地域作りに、貢献することを目標とする。

- 1) 参加者 193 名の内、赤穂市 104 名、備前市 34 名、上郡町 13 名で合計 151 名 (78.2%)。2市1町の大会実行委員会を中心として、本大会の前に計4回の実行委員会とプレ大会を開催し意思疎通を図った。これにより囲碁を通じた地域間連携と交流の推進する基盤が整った。
- 2) 今回の忠臣蔵囲碁大会の参加募集をインターネットホームページから発信し、西は長崎市/東は千葉県柏市からの参加者があり、今後全国的な囲碁大会として発展させ道筋を付けることができた。また遠方から参加した 10 数名は赤穂で宿泊し、観光振興への幾分かの貢献あり。
- 3) 赤穂御崎正福寺秘蔵の大石内蔵助対局碁盤と、内蔵助良雄と正福寺住職良雪和尚対局の図(福田眉仙「二良の対局の図」:本邦初公開)を借用、会場に陳列。参加者の興味と関心と呼んだ。今後、内蔵助が残した囲碁に関する遺産とエピソードをもとに囲碁の町赤穂を宣伝し、この忠臣蔵交流囲碁大会を発展させて行きたい。
- 4) いままで囲碁大会と言えば、腕に覚えのある兵どもが覇を競うという色合いが強かったが、このようなチャンピオン戦の他に、囲碁を覚えただけの初心者も参加できる、「初級者クラス」と、こどもを対象とした「チビっ子クラス」を設け、赤高囲碁部部員も参加いただき、囲碁人口の底辺と若年層への拡大を図る事が出来た。
- 5) 大会開催に当たって2市1町の、会社(個人)に協力を依頼、45に及ぶ会社(個人)から寄付ならびに協賛賞品の提供を受けた。
協賛会社名は、インターネットのホームページに掲載するとともに、賞品の目録を作成し、賞品と一緒に参加者に手渡し協賛会社のPR宣伝をした。

② 今後の課題

- 1) 今後権威ある大会に育てていくための方策。継続的に開催して行くための長期計画とそれを可能とする「人、物、金」体制の構築
- 2) 2市1町の囲碁人口の拡大
 - ①現在の老人に偏った囲碁人口を若年層、勤労者、女性の囲碁愛好者を増やす方策
 - ②学生、こどもへの囲碁の普及活動の活発化(学校教育、クラブ活動)
- 3) 場所の確保
大会を義士祭の前夜祭として位置付けるために、200人以上収容できる対局場の確保
- 4) 市、県の支援金増額

3 実施事業の写真



7月13日 2市1町の
大会実行委員の親睦も兼ね
て忠臣蔵プレ囲碁大会を赤
穂楽碁会囲碁サロンにて開
催。参加者は赤穂12名、備
前市10名、上郡町名13名
合計35名
Aクラス(3級以上)
優勝 浜 満 五段
(上郡町)
Bクラス(4級以下)
優勝 三島奈津子 四級
(赤穂市)



予選大会開会式



開会式 来賓挨拶
赤穂市企画振興部
橘部長

兵庫県県会議員
長岡壮寿氏

審判長挨拶
(財)関西棋院
端山7段



予選大会対局開始
(文化会館小ホール)



予選対局の様子

初級クラス



A、B、Cクラス



展示室にて

チビっ子クラスの
対局風景



チビッ子大会

終了後の記念写真



決勝大会会場

花岳寺山門



選手 対局前花岳寺

義士の墓所に御参り
墓前での御焼香



花岳寺本堂前にて

奉納傘踊り

津山宮坂流銭太鼓保存会
「花手まり社中」



花岳寺本堂での

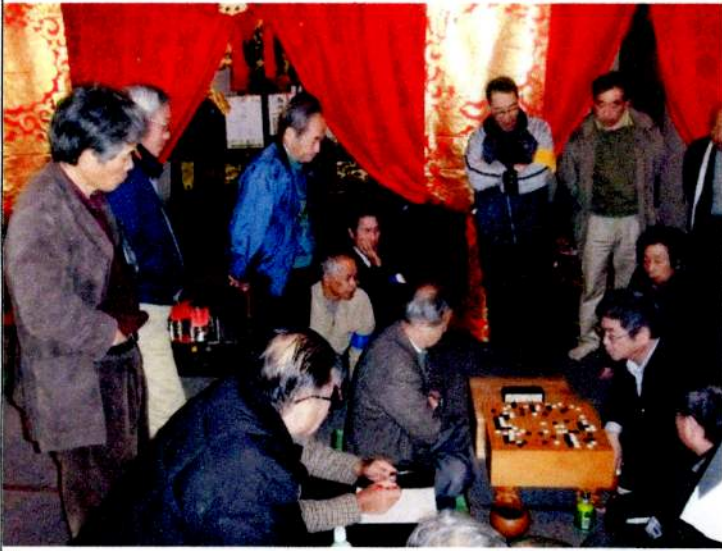
決勝大会の開会式

会場内に大石内蔵助良雄の
対局の碁盤と二良の対局の
図（掛軸）を展示
展示品の説明は

[4. 添付書類を参照](#)



赤穂市豆田市長挨拶



チャンピオン戦
Aクラス決勝戦
熱戦風景



賞品授与式



忠臣蔵交流囲碁大会

第一回
A, B, C クラス
チャンピオン戦
入賞者記念写真

イ ベ ン ト 等 事 業 収 支 決 算 書

1 期 間 平成 22 年度 (平成 22 年 5 月～ 平成 22 年 12 月)

2 収入の部

(単位 ; 円)

科 目	金 額	備 考
事業推進支援金 (ア)	115,000 円	東備西播定住自立圏民間イベント事業支
自己資金 (寄付金)	98,000 円	
参加費 プレ大会	35,000 円	1000 円 × 35 名
" チャンピオン大会	204,000 円	1500 円 × 136 名
" 初級クラス大会	23,000 円	1000 円 × 23 名
その他の助成金 (補助金)	150,000 円	兵庫県地域づくり活動応援事業助成金
合 計 (イ)	625,000 円	

※ 収入科目は、収入金額の種類 (自己資金、他団体負担金、参加費等) に分けて、それぞれ記入してください。

※ 他から助成を受けた場合は、「その他の助成金 (補助金)」の欄に記入してください。

3 支出の部

(単位 ; 円)

	科 目	金 額	積算内訳	
助成対象経費	謝金	100,000 円	審判長 50,000 円 × 2 日	
	会場費	110,940 円	文化会館借用料他	
	賃借料	40,000 円	関西棋院より碁盤、碁石、対局時計賃借	
	通信費	83,008 円	募集案内発送費、切手他	
	事務用品	47,826 円	プリンターインク、ネームホルダー他	
	小 計 (ウ)	381,774 円	(ウ) ≥ (ア)	
対象外経費	賞品代	26,326 円	トロフィー 楯他	
	飲食費	156,090 円	参加者への弁当代他	
	雑費	43,070 円		
	繰越金	17,740 円		
	合 計 (エ)	625,000 円	(エ) = (イ)	

※ 収入と支出の合計は一致させてください。